キリスト教学研究室紀要

第 12 号

―論文―

A.v. ハルナック『マルキオン』における諸問題― ユダヤ教、聖書、哲学 ―
津田　謙治　(1)

スピノザ『ヘブライ語文法綱要』の歴史的読解のために
手島　勲矢（23）

―翻訳―

ドイツ語圏のプロテスタント教義学における最近の動向
ディルク・エーヴァース（岡田　勇督　訳）（56）

解説：現代ドイツ神学への一視角
岡田　勇督（81）

あとがき　(88)

２０２４年 ３月
京都大学キリスト教学研究室

あとがき

◆『キリスト教学研究室紀要』第 12 号をお届けいたします。京都大学キリスト教学専修（研究室）刊行の「研究室紀要」も、2013 年度の創刊から、今回で第 12 号を迎えました。紀要第 12 号を無事に刊行できたことについて、執筆者、そして編集担当者に心から感謝申し上げます。

◆京都大学のキリスト教学研究室は、教員と大学院生を中心に構成された研究者の研究共同体として運営されていますが、そこで取り組まれる研究テーマは多岐にわたっています。構成員（大学院生）が実際にどのような研究を行っているかは、本号に収録された「2023 年度・第二演習の記録」に記載された通りになります。

◆この「研究室紀要」は、キリスト教学研究室の研究内容を広く公開すると共に、所属の大学院生に論文などの執筆機会を提供することを目的としています。

査読体制の確立など、創刊当初からの懸案事項が存在するものの、当面は、大学院生の研究論文、研究ノート、書評に加え、教員（常勤と非常勤）や課程修了者による研究論文を掲載することによって、研究論集としての十分な水準が確保されるように心掛けたいと思います。

◆2023 年度より、キリスト教学専修主任の津田准教授が教授に昇任し、論文博士の審査なども含めて研究室の教育・研究の体制が充実することとなりました。講義や研究指導など、思想文化学系の他専修の先生方と協力しつつ、より一層の発展に努めて参りたいと思います。

◆2023 年度のキリスト教学専修では、学部卒業生 1 名（佐藤良磨）、大学院修士課程 1 名（中尾直通）が、それぞれ卒業論文と修士論文を提出し、それぞれの課程を修了しました。また、2 名（渡邉蘭子、平出貴大）の課程博士論文の試問が行われ、博士号が授与されました。それぞれの場での研鑽と飛躍を期待しております。

なお、2023 年度は、新型コロナウイルス感染への十分な対策のもとで、ハイブリッド形式で予餞会を開催し、懇親会の方も行うことができました。また、2024 年度は、新たに学部生 2 名がキリスト教学研究室に加わる予定です。

◆本紀要は、研究室のホームページ、あるいは京都大学学術情報リポジトリ（紅・KURENAI）において公開されており、基本的には電子ジャーナルとして企画されています。これまでは一定部数の印刷製本も行われてきましたが、2021 年度の第 9 号からは、冊子体の印刷は行わなくなりました。この電子ジャーナルによって、キリスト教学研究室の研究活動が研究室外の方々に広く知っていただけるならば、幸いです。

2024 年 3 月

キリスト教学専修・教授
津田謙治

『キリスト教学研究室紀要』について

以下に示す投稿規定、執筆要項は、『宗教研究』（日本宗教学会）に準じたものであるが、暫定的なものであって、随時改訂することになる。

A.『キリスト教学研究室紀要』論文投稿規定

１．投稿者は京都大学キリスト教学専修の教員（常勤・非常勤）と研修員、大学院生にかぎる。なお、ＯＤの投稿については、個別に判断する。

２．内容は未発表の学術論文、書評論文であること。大学院生の投稿者の場合は、第二演習での研究発表などの論文化を原則とし、修士課程の学生の投稿は書評と研究ノートに限るが、本紀要における特別企画などに応募する場合には例外的に論文投稿を認めることがある。論文と書評の採択、またこの原則についての例外的扱いについては、編集委員会（当面は本研究室専任教員）が決定する。なお、研究ノートや諸報告などについても、論文や書評に準じて適宜判断する。

３．原稿は横書き、枚数は学術論文400字詰原稿用紙50～60枚程度（注・図表等を含む)、書評論文 400 字詰原稿用紙 15～20 枚程度とする。

４．電子データの書式は、横書き、40 字×30 行とし、400 字詰原稿用紙での換算枚数を付記する。

５．学術論文には欧文タイトル、氏名のローマ字表記を付記すること。

６．稿料は支払わない。

７．『キリスト教学研究室紀要』は基本的には電子ジャーナルとして刊行され、冊子印刷は行わない。

８．掲載された論文は京都大学キリスト教学専修ホームページと京都大学学術情報リポジトリ（KURENAI）で公開する。そのため、当該論文の複製権と公衆送信権はキリスト教学研究室に委託されるものとする。ただしこれは、執筆者本人による複製権および公衆送信権の行使を妨げるものではない。

—2024 年 3 月 29 日発行—

2023 年度・第二演習の記録

〈前期〉

4 月 3 日	：津田謙治	「オリエンテーション」
4 月 11 日	：ティエリ・リチャーズ	「内村鑑三の罪に対する認識の変化 ― 1886 年の贖罪理解に至るまでの分析」
4 月 18 日	：香西　信	「バルナバの手紙における聖書解釈」
4 月 25 日	：森喜啓一	「ピーター・バーガー研究 ― 宗教と疎外」
5 月 9 日	：下村真代	「西谷啓治、上田閑照のエックハルト理解 ― ドイツ語説教 86 番「マリアとマルタについての説教」理解を中心に」
5 月 16 日	：西村一輝	「神学におけるアナロギア原理の適用とその限界に関する最初期 W・パネンベルクの批判的洞察 ― 「歴史としての啓示」の構想という文脈の中で」
5 月 23 日	：塩川礼佳	「南原繁の宗教哲学 ― 価値の形式性と内容性に着目して」
5 月 30 日	：メナチェ・アンドレス	「『イエズス会日本コレジオの講義要綱』に見られる天使と悪魔像について」
6 月 20 日	：叶　一帆	「霊的な力に関するシュペーナーの理解」
7 月 4 日	：中尾直通	「7 世紀の『神人的働き』をめぐる議論」
7 月 11 日	：藤守　麗	「ヘブライ語聖書に見られる女性キャラクターの言説分析」
7 月 18 日	：潘　陽	「明治日本の「理想画」 ― 青木繁「心の風景」(一)」

〈春期・大学院生研究発表会〉

9 月 2 日：日本基督教学会・全国大会における個人研究発表予定者による予行演習。

〈後期〉

10 月 3 日	：叶　一帆	「シュペーナーと幼児洗礼」
10 月 10 日	：中尾直通	「キリストの人間的意志に見る神化のあり方」
10 月 31 日	：香西　信	「旧約と新約」
11 月 7 日	：森喜啓一	「ピーター・L・バーガーにおける宗教と疎外」
11 月 14 日	：山中健司	「矢内原忠雄の信仰と社会観（5） ― 基督教理想主義と無教会主義」
11 月 21 日	：ティエリ・リチャーズ	「内村鑑三による終末論と罪の理解の関連性」
12 月 5 日	：下村真代	「エックハルトを現代隠喩理論からまなざすための準備」
12 月 12 日	：西村一輝	「スコラ学において〈一義性と多義性の中間〉としてのアナロギアが導入される背景となる問題状況に関する最初期 W・パネンベルクの考察」
12 月 19 日	：メナチェ・アンドレス	「『日本のカテキズモ』に見られる迷信行為と悪魔的契約について」
1 月 9 日	：塩川礼佳	「南原繁の「宗教哲学」の方法 ―「神の国」の哲学的把握をめぐって」

〈春期・大学院生研究発表会〉

3 月 16 日：日本基督教学会・近畿支部会における個人研究発表予定者による予行演習。

The Annual Report on Christian Studies

XII

CONTENTS

Article

Some Issues in A.v. Harnack's *Marcion*: the Holy Scriptures, Judaism, and Philosophies

TSUDA Kenji (1)

Jewish and Christian Traditions of Hebrew Grammar in Compendium Grammatices Linguae Hebraeae

TESHIMA Isaiah (Izaya) (23)

Translation

Neuere Tendenzen in der deutschsprachigen evangelischen Dogmatik

Dirk Evers (tr. by OKADA Yusuke) (56)

Eine Perspektive für die Systematische Theologie in Deutschland heute

OKADA Yusuke (81)

Afterword (88)

March, 2024

Faculty of Letters, Kyoto University, Department of Christian Studies

Kyoto Japan